



fukuichi 10year's history

株式会社福市
フェアトレードの
10年史
そして未来へ



fukuichi
10year's
history

株式会社福市
フェアトレードの
10年史
そして未来へ

Fair
Trade

01 ~株式会社福市設立10年を迎えて~ 今、あらためて伝えたいこと

「途上国の人を救いたい、その思いで事業をされているのですね、すごいですね」

初対面の方から良くかけられる言葉だが、いつも違和感を覚える。

私がフェアトレードという概念に出会ったのは1990年代の後半。当時経営していたマーケティング会社の仕事が楽しくて仕方がない時だった。しかし、企画した商品が消費されて、どんどんゴミとなっていく。そしてデフレ価格から原価は低く抑えられ、原材料費と生産者のコストを貽するはずがないのではと疑



問を持った、そんなタイミングであった。

その答えを見つけたく、NGOの主催するスタディーツアーで2000年にインドに飛び立った。海外経験はたくさんあったが、インドの奥地の貧困の現状、私たちの経済発展の結果として生まれている環境破壊など、目の当たりにして衝撃を受けた。

貧困は途上国の問題ではない 世界の仕組みの問題

インドで出会った商品をきっかけに、国際NGOオックスファムの日本での設立に関わった。世界の貧困の現状、そして援助の可能性と限界、現地の人のエンパワーメントを尊重する姿勢など、途上国支援のノウハウを積み重ねてきた団体からの学びは多かった。そして、見えてきたのは、「私たち日本人が何も知らない」とことだった。

私たちが安さを求めるために、過度な農薬が散布され健康被害を生んでいたり、搾取されている人たちがいたり、環境を破壊していたり。そして経済発展という名のもとに著しい貧富の差が生まれていること。今まで平和に暮らしていたのに、まわりまわって暮らせなくなっている人たちがいることを。課題はあまりにも複雑に絡まって、何から手を付けてよいかもわからず、途方に暮れた時期でもあった。しかし、自らのマーケティング力を使えれば何かを動かせるのではないかと思い、取引先企業に、「英国のコムデギャルソンのカフェで

our mission 『持続可能な社会に向けて行動する人を増やします』

はフェアトレードの紅茶を出していますよ。なかに企画しませんか」と声をかけた。反応は全くなかった。

当時のフェアトレード業界は、NPO系の人たちが、国際協力に関心のある人たちへのバザーなどの販売が主だった。かわいそうな人から商品を買ってあげる。フェアトレードとはそういうイメージだった。

私には強い違和感があった。私たちが、彼らの貧困に加担しているかもしれないのに、それも知らず、かわいそうというのではなく、私たちがもっと学び、理解し、そして、フェアトレード商品を通じて、継続的な自立につなげていかなくてはいけないのではないか。

走りながら考える

もう一つ、フェアトレードの認証への疑問があった。フェアトレードラベルはすでにヨーロッパで多くの人に認知されていた。では、ラベルが無いものは、たとえ途上国の人たちをサポートしている商品でも認められないのか? 貧困であればあるほど、情報などが入らず、言葉の壁やコスト面などで認証を取得することが難しいのは明白であった。

早速、フェアトレードインターナショナル(FI)の本部があるドイツに飛び、ディレクターに面談を申し入れた。

「私たちは団体を認証しラベルを発行している。しかしこれが完璧な方法だと思っているわけではない。ラベルの取得が難しい貧困

層の人たちがいることも知っている。しかし、完璧な仕組みの完成を待てば、それまでに命を落してしまう人もいる。走りながら考えることもできるのではないか」当時のFIのディレクターの言葉は、私の中にストンと落ちた。

これで自らがフェアトレードに取り組むミッションが明確になった。途上国の貧困の問題は、途上国の人たちだけの問題ではなく、私たちとつながっていることを伝え、商品を循環させて、フェアトレード商品を持つことがカッコいい文化を作る。私たち全員(先進国も途上国も)が、地球上で起こっていることを理解し、『持続可能な社会に向けて行動する人を増やす』ことだ。

そのためには、フェアトレードを特別な人たちの物ではなく、一般の人たちがコミットできるような環境を作ることが不可欠だ。まずは、誰もが知っている商業施設にお店を出し、成功事例を作ること。フェアトレードのショップが注目を集めれば、流通業も必要と認めて商品、あるいはお店を開拓するに違いない。高いハードルを設定し、2006年に株式会社福市はスタートした。

それから10年。地球上の問題は、さらに複雑で困難となっているように感じる。私たちには多くの人たちが行動を起こせるように、フェアトレードに限らずさまざまな取り組みを今後も加速させたいと思っている。

株式会社福市 代表取締役 高津玉枝

カンボジア

内戦による虐殺が激しかった悲しい歴史の国カンボジア。傷跡は今もいたるところにあります。私たちのパートナーも地雷で被害を受け義足で生活しています。生産者にはポリオを患っている人、HIVで両親を亡くした子どもとおばあさんの家族、雨季にはボートでしか移動できないエリアの人など、仕事を得るのが難しい人たちがたくさんいます。



ブルキナファソ

西アフリカの最貧困の一つ。平均寿命は55才。訪れた展示会場の野外レストランでは、子供がレストランのオーナーの許可を得て、残飯の鳥の足をしがみ、空腹を紛らしていました。「ここにはタンパク源があるからまだマシよ。地方はもっと厳しい状態なの」現地に詳しい知人の言葉です。ポリオを患い、杖をついて歩く人の姿もいたるところで見かけました。

02 ~私たちが途上国で見てきたこと~ 小さな課題に潜むもの

フェアトレードの生産者たちを訪問すると、さまざまなことが見えてきます。個人の問題のようにみえても、根本には深く大きな問題がくすぶっています。現地に行くからこそ見えてくること。大切にしたいと思っています。



ブラジル

経済発展の著しいブラジルでは貧富の格差が広がっています。車で2時間ほど走った郊外の町は、鉄条門と高い塀のいたるところに落書きがあり、路上には何をするでもない男性たちがぼんやり座っていました。「都心に行かなくては仕事が無いけど、交通費が高くて通えないし、都心は家賃が高いので、みんなスラムでしか生活できない」



ベトナム

かつて人身売買があったという村を訪問しました。豊かに広がる水田に貧困のイメージは結びつきませんでした。物々交換から貨幣経済へ。今まで自分たちだけで生活が成り立っていたのに、お米を換金しても価値は低く、父親が出稼ぎに。しかし言葉と教育の壁が、まともな仕事に就くことを阻み、収入につながらず、仕方なく、教育と仕事を与えるという誘い文句で子供たちが奪われていったそうです。

東北

東日本大震災からすでに5年以上。震災関連のニュースはほとんどなくなりました。津波で家を流された人たちの中にはまだ仮設住宅で暮らしている人もたくさんいます。恒久住宅に移った人々は安定したかのように見えますが、コミュニティがぱらぱらになり、ささやかに育っていた野菜も育てられなくなり、生業(収入)を得るのが難しいのも現状です。



インド

2億人の人口を有するウッタルプラデーシュ州は、乾季には日中45度を超す猛暑の、インドの東に位置する地方です。多彩な民族と宗教、文化に恵まれている一方で、貧困ライン以下の生活者が約3割を占めます。電気や水などライフラインが整っていない地域もたくさんあります。カーストの影響も強く、女性の地位はまだまだ低いままです。



持続可能な社会に向けて、
世界中が行動を始めています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



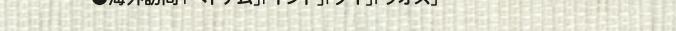
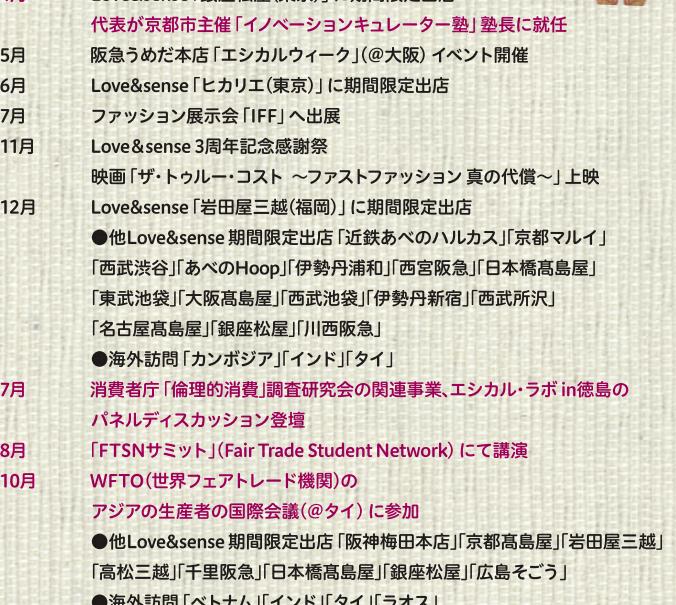
03 ~福市のあゆみ~ 年表2006-2016

2006	11月	2006年11月17日 大阪市中央区南船場に「(株)福市」設立
	11月～3月	FUKUICHI MARKET「名古屋ロフト」に期間限定出店
2007	3月	●海外訪問「ベトナム」
2008	2月	関西最大級のNPO／NGOの祭典「ワンワールド・フェスティバル」出店
	4月～7月	Love&sense「表参道ヒルズ(東京)」に期間限定出店
	5月	NHK「経済最前線」で高津玉枝のフェアトレードへの取り組みが紹介
	7月	Love&sense「阪神梅田本店(大阪)」に期間限定出店
	12月	Love&sense「有楽町マルイ(東京)」に期間限定出店
		●海外訪問「タイ」
2009	1月	Love&sense オンラインショップスタート
	8月	社会起業支援サミット2009 in大阪にて代表が登壇
	10月	Love&sense「有楽町マルイ(東京)」に期間限定出店
	11月	Love&sense「大阪高島屋」に期間限定出店
		●海外訪問「ヨーロッパ」「ネパール」
2010	5月	Love&sense「伊勢丹新宿店」に期間限定出店
	11月	Love&sense「横浜高島屋」に期間限定出店
		●他 Love&sense 期間限定出店「天王寺MIO」「大阪高島屋」
		●海外訪問「タイ」「カンボジア」
2011	1月	事務所移転(大阪市西区阿波座)
	3月	東日本大震災
	4月	Love&sense「名古屋高島屋」に期間限定出店
		東北被災地訪問
	7月	東日本大震災支援プロジェクト EAST LOOP を立ち上げる
		●他 Love&sense 期間限定出店「横浜高島屋」「大阪高島屋」「名古屋高島屋」
		●海外訪問「ブラジル」「アメリカ」
2012	1月	経済産業省ソーシャルビジネスケースブック(震災復興版)に取り上げられる
	6月	経済産業省ソーシャルビジネス創出促進事業に採択される
	8月	インドの「INDIAN FASHION JEWELLERY&ACCESSORIES SHOW 2012」に招待されて視察
	9月	EAST LOOPの作り手さんを招いて「EAST LOOP感謝祭」@大阪
	11月	阪急うめだ本店10Fに Love&sense 初の常設店舗をオープン
		●他 Love&sense 期間限定出店「横浜高島屋」「大阪高島屋」
		●海外訪問「タイ」「ベトナム」「カンボジア」「ブルキナファソ」「フランス」「イギリス」



		9月	EAST LOOPの作り手さんを招いて「EAST LOOP感謝祭」@大阪
		11月	阪急うめだ本店10Fに Love&sense 初の常設店舗をオープン
			●他 Love&sense 期間限定出店「横浜高島屋」「大阪高島屋」
			●海外訪問「タイ」「ベトナム」「カンボジア」「ブルキナファソ」「フランス」「イギリス」

2013	3月	EAST LOOPの作り手さんを招いて「EAST LOOP感謝祭」@東京
	4月	Love&sense「日本橋三越本店」に期間限定出店
	6月	経済産業省「ソーシャルビジネス創出促進事業」に採択される
	9月	「EAST LOOP」をNPO法人「遠野山・里・暮らしネットワーク」に移管 ファッション展示会「rooms27」へ出展 ●他Love&sense 期間限定出店「横浜高島屋」「大阪高島屋」
2014	1月	●海外訪問「ベトナム」「カンボジア」「インド」
	5月	ソーシャルプロダクツ・アワード「特別賞」を受賞 ノルウェーのニットデザインデュオ「アルネ&カルロス」が
	6月	EAST LOOPの作り手の人たちを訪問 Love&sense「日本橋高島屋」に期間限定出店
	7月	復興庁「新しい東北」のモデル事業に採択される
2015	10月	WFTO(世界フェアトレード機関)の アジアの生産者の国際会議(@韓国)に参加
	11月	Love&sense 2周年記念感謝祭 インテリア展示会「IFFT」へ出展 ●他Love&sense 期間限定出店「横浜高島屋」「大阪高島屋」「あべのHoop」「小田急町田店」「東武池袋店」
	2月	●海外訪問「カンボジア」「タイ」
	4月	第11回日本パートナーシップ大賞の「オルタナ賞」を受賞 Love&sense「銀座松屋(東京)」に期間限定出店 代表が京都市主催「イノベーションキュレーター塾」塾長に就任
2016	5月	阪急うめだ本店「エシカルウイーク」(@大阪) イベント開催
	6月	Love&sense「ヒカリエ(東京)」に期間限定出店
	7月	ファッション展示会「IFF」へ出展 Love&sense 3周年記念感謝祭 映画「ザ・トゥルー・コスト ～ファストファッション 真の代償～」上映
	11月	Love&sense「岩田屋三越(福岡)」に期間限定出店 ●他Love&sense 期間限定出店「近鉄あべのハルカス」「京都マルイ」「西武渋谷」「あべのHoop」「伊勢丹浦和」「西宮阪急」「日本橋高島屋」「東武池袋」「大阪高島屋」「西武池袋」「伊勢丹新宿」「西武所沢」「名古屋高島屋」「銀座松屋」「川西阪急」
2017	12月	●海外訪問「カンボジア」「インド」「タイ」
	7月	消費者庁「倫理的消費」調査研究会の関連事業、エシカル・ラボ in 徳島の パネルディスカッション登壇
	8月	「FTSNサミット」(Fair Trade Student Network) にて講演
	10月	WFTO(世界フェアトレード機関)の アジアの生産者の国際会議(@タイ)に参加 ●他Love&sense 期間限定出店「阪神梅田本店」「京都高島屋」「岩田屋三越」「高松三越」「千里阪急」「日本橋高島屋」「銀座松屋」「広島そごう」



04 ~株式会社福市の~ フェアトレードの仕組み



フェアトレードとは、継続的に商品を売買して、主に途上国の生産者を支援する仕組みのことです。チャリティーとは異なり、労働の対価として適正な賃金を支払い、厳しい環境にいる人たちの生活改善と自立を目指しています。私たち株式会社福市は、途上国で頑張っている仲間と、日本人の人々を結ぶ架け橋の役割を担っています。



※フェアトレードとは
(FLO、WFTO、EFTAの3つの団体からなる
ネットワークが定めた定義から引用)

フェアトレードは、対話、透明性、敬意を基盤とし、より公平な条件下で国際貿易を行うことを目指す貿易パートナーシップである。特に「南」の弱い立場にある生産者や労働者に対し、より良い貿易条件を提供し、かつ彼らの権利を守ることにより、フェアトレードは持続可能な発展に貢献する。フェアトレード団体は(消費者に支持されることによって)、生産者の支援、啓発活動、および従来の国際貿易のルールと慣行を変える運動に積極的に取り組む事を約束する。

05 ~ある日突然チャンスは訪れる~ 最初に「場」を作る



**FUKUICHI MARKET
@名古屋ロフト/2006年**

偶然に訪れた名古屋ロフトからの相談(マーケティング時代の取引)が、株式会社福市の誕生の後押しとなりました。フェアトレード事業の構想は出来上がりつつあったにもかかわらず、誰もが知っている商業施設でしか展開しないと、高いハードルを自ら掲げたものの、実績も信用も全くない企業に一体だれが場所を提供してくれるというのでしょうか。

そんなタイミングで相談があった内容は、当時では珍しく、「実績が無くてもユニークなお店が出店し賑わいをつくる」というコンセプトでした。乗らない手はないと思い、急ぎよ企画書を作成し、参加を決定。主に国内のフェアトレード商品を調達し、内装環境を整え、わずか一ヶ月足らずで、最初のお店“FUKUICHI MARKET”を誕生させました。

勢いでつくったものの、売り上げがわずか250円の日もあり、厳しい毎日。当時のフェアトレード認知度はわずか3%。自分たちの取り組みの壁の高さを突き付けられました。そし

て、じっくり考える機会をいただいたスタートとなりました。

一方で、モノマガジンをはじめ、先見の明のある媒体が大きく取り上げてくれたこと、WEBマーケティング調査を行い、消費者の人たちの高い反響を得ることができ、次のステップへの礎となりました。

Love&sense誕生 表参道ヒルズ/2008年

東京で最も注目を集めている商業施設「表参道ヒルズ」に期間限定出店の機会をいただきました。早速、タイ・ベトナムなどを訪問し、今まで親交を深めてきたパートナーとの本格的な取引がスタートし、「Love&sense」というブランドが誕生しました。ファッショングの中心地でのフェアトレードショップの展開は流通業界へのインパクトも大きく、次の商業施設への展開の足掛かりとなりました。

またNHKの経済最前線で特集を組んでいただきことも業界内外に大きな影響を与えました。



日本橋高島屋/2013年~

大阪店・横浜店などいつも応援してくれている高島屋より新たなチャンスをいただきました。国の重要文化財にも指定されている日本橋高島屋の一階の正面スペースでの展開です。大理石で作られた重厚な空間では、すべての商品が輝きを増します。意識の高いお客様の支持をいただき、今では、毎年恒例の取り組みにつながっています。



他のPOPUPショップ



Love&senseの流通業での展開をきっかけに多くの商業施設がフェアトレードやエシカルをテーマにイベントが開催されるようになり、より多くのお客様との接点が生まれたと思っています。(阪急阪神百貨店グループ・高島屋グループ・三越伊勢丹百貨店グループ・銀座松屋・東武百貨店・近鉄あべのハルカス・そごう西武百貨店グループ・ヒカリエなど)

オンラインショップ

2009年にスタートしたオンラインショップ。より多くの人にお届けするために写真やコメントなどを盛り込み、作っています。

展示会・卸(Rooms27・IFFT・IFF)



Love&senseの取り組みを伝えるために、展示会にも出展しています。2013年にファッションの展示会rooms27では、リサイクルのブルタブバッグやセネガルのフェアトレード認証コットンを使った立体的なTシャツが人気を集めました。世界的に有名なデザイナー・シノジュンコさんの目に留まり、その後、月刊誌「婦人画報」の「世界が微笑むギフトを贈る」特集に推薦していただきました。

また、フェアトレードに共感してくれるパートナーとの出会いもたくさんありました。



06 ~阪急うめだ本店に常設店~ 次は「拠点」を作る

2011年から事業に本格的に取り組むべく体制を整えたものの、東日本大震災が起こり、東北支援プロジェクト「EAST LOOP」に奔走しつつも「Love&sense」の常設店舗出店を模索していました。そんな中、阪急百貨店うめだ本店が7年越しのリニューアルオープンを控えていることを聞きつけ、プレゼンテーションに伺いました。西日本で最大規模かつファッショントレードを牽引する阪急百貨店での常設店舗は新たな挑戦となりましたが、次のライフスタイルを提案するという面で共感をいた

だき、出店することになりました。

百貨店の本店にフェアトレードのセレクトショップが常設店としてオープンしたのはおそらく日本で初めてです。誰もが気軽に立ち寄れる、そしてフェアトレードに関心のない人たちとも積極的に接点を持てるような環境を整えることができました。

スタッフと共に、より多くの人にフェアトレードのこと、生産者のこと、途上国で起こっていることをお伝えし、お買い物を楽しんでいただいています。



2015年
第二四半期
フロアの売上
伸び率第1位
を獲得

2016年2月
接客
ロールプレイング
コンテスト
にて優勝



「エシカルウィーク」を阪急百貨店と共に企画。さまざまなエシカル・フェアトレードブランドを誘致し、トークショーなどを開催しました。
(写真)トークイベント。パタゴニアの辻井日本支社長と共に



hanam シルク玉ネックレス
(ベトナム)

ウッドビーズをシルクでくるんで、手作りされているネックレスは、誰もがつけた時の軽さに驚きます。長さのあるネックレスなので2連や3連など洋服に合わせてゴージャスにも、カジュアルにもアレンジ可能です。少数民族や障がい者をサポートしているNGOと一緒に開発しました。



かごバッグ
(タイ)

川を埋め尽くすホティアオイを材料として作られているかごは、農村地域で高齢のため農作業ができなくなった女性たちに貴重な現金収入をもたらしています。カラフルな色の組み合わせは作っている女性たちのオリジナルデザイン。カジュアルなシーンはもちろん、着物や浴衣などにも大活躍します。



プルタブバッグ
(ブラジル)

誰もが驚くスタイリッシュなデザイン。すべてリサイクルされたプルタブでできています。ブラジルの首都ブラジリア郊外の貧困地域の女性たちによって作られているこのバッグやアクセサリーは、地元のコミュニティ一づくりにも貢献し、MOMA(ニューヨーク近代美術館)のミュージアムショップでも人気です。オフィスシーンでも華やかさを添えます。



タグアアクセサリー
(コロンビア)

象牙に代わるエコ素材として注目を浴び、ベジタブルアイボリーとも呼ばれるタグア。南米の太平洋岸の熱帯雨林に自生する象牙椰子の種子から作られています。色鮮やかなネックレス、ブローチ、ピアス、ブレスレットと幅広い品揃えが大人気です。自然のぬくもりが感じられる、地球にやさしいアクセサリーです。



100年ストール
(カンボジア)

ブンベンからメコン川を渡った小さな村。雨季には水かさが増し、ボートでしか移動できないこの地域では、手織りのストールが大切な収入源になっています。母から娘へと代々、織りの技術が100年以上も伝えられ、今も家々から布を織るリズミカルな音が響いています。手織りならではのしなやかさが魅力です。

07 現地で見てきたこと

「仕事の力がもたらす収入より大きなもの、現地で見てきたこと

少し薄暗い空間に並ぶミシンが、リズミカルな音を立てている。しかしそこで働いている人たちにとっては静寂の時間が流れている。聴覚やさまざまな障がいを持つている人たちが働いているベトナムの工房を訪問した。このNGOは山岳地域や少数民族の障がい者をハノイに集めて、教育と働く機会を提供している。

まだ10代に見える少女たちが丁寧に仕事を続けていた。

「こんな幼い子供たちが、両親から離れて、都会に連れてこられて。なんて悲しい！」当時の私には、かわいそうしか思えなかつた。

手が欠損している少女にインスピレーションをする「」などができた。器用ミシンを操るながら彼女は語ってくれた。

「私はここで働くことをとても誇りに思っている。村は貧しく、みんな大変なことは。しかし今の彼女は働くことができ、厄介者から、村のために何かができるという力を

持つ、自信を持つて生きている。仕事が持つ力をはじめて認識した瞬間であった。

川を渡り、そこから土塹の道を30分以上走り続けて、高床式の家が並ぶ村にやっとたどり着いた。

あちこちから、機織りの心地よい音

プロンペンから車で一時間。メコン川を渡り、そこから土塹の道を30分以上走り続けて、高床式の家が並ぶ村にやっとたどり着いた。

仕事が持つ力をはじめて認識した瞬間であった。



2007年に訪れたベトナムのトレーニングセンター



100年続くカンボジアの織の村

が聞こえてくる。

「この村は100年以上も前から女性たちが機織りの仕事を続けてきた村だ。母から娘に引き継がれ、今も乳飲み子をあやすながら、機織りが続いている。

この地域は、雨季になれば川の水位が上がり、家の間を船でしか移動できない。つまり、雨季は主要産業の農業ができないため、収入が限られてしまう。乾季の間に女性たちは機織りで、貴重な収入を得て生活している。美しい手織りのシルクのスカーフはオーガンジーのような柔らかさだ。しかし近年、機械化された工業製品



カラフルに染められた手織りのスカーフ



丁寧に刺繍をするインドの女性

シユ州の戦略は、それぞれの村で完結できる小さなサプライチェーンを作る」とだった。

白い生地で作られたケルタ（インダの伝統的な洋服の形）を村に配る。手彫りで作られた木のハンコで、目印となる模様を洋服に捺していく。そのデザインに沿って一つひとつ丁寧に刺繡がほどこされていく。それを村で洗濯し、ローラーのようなアイロン（ヘ）でしわを伸ばして完成。

都市に企業を誘致し、経済発展させることにより、家族が自分たちの村で共に住むことができるよう判断した政策は、時代の最先端の選択と思う。

WORK for LIVE

08 ~途上国で商品をつくるということ~ 商品開発の課題

「事前にサンプルの写真を送ったのになあ、なんで全く異なる商品になってしまったのだろう」

Love&Senseの展開が始まったころに、かごの生産者を訪ね、商品開発に着手しました。かごにバリエーションを持たせ、縁にレースをつけた商品を開発しようと試みましたが、現地を訪問して見た完成品は、想像とは異なるものでした。

理由を聞いてみると、こちらのリクエストした素材が見つからなかったからでした。「バンコクまで3時間の道のりを何度も車を走らせ探してみたが、福市さんから指示されたデザインイメージのものが見つからなかった。なので代替え品を購入して作ってみたよ」とのことでした。

日本だと、探しているものはネットなどで、

簡単に見つけられますし、物流も発達しているので入手することができます。しかし、途上国では、日本の当たり前が通じないことを初めて経験しました。

彼らにガソリン代を負担させて、片道3時間もかけて、素材を探しに行かせる。これは本当に彼らのためになることなのでしょうか。この経験を踏まえて、できる限り現地で調達可能な材料を使って、商品開発をすることを心がけています。

工業製品のようにはいかない 不揃いさは手作りのあたたかみ

ベトナムでつくられているロングセラー商品、hanamのシルク玉ネックレス。この商品の



色の不安定さにも常に頭を悩ませています。色を指定しても、納品のたびに異なった色が届き、結び目の強弱で長さもまちまちになります。工業製品のように規格でしづらつけるのではなく、今では不揃いさを逆手にとって、商品の手作りのあたたかみとしてお客様に楽しんでもらっています。

素材の品質にも油断は禁物です。ネパールから届いたカシミヤのストール。カシミヤ素材のため、百貨店で販売するには品質証明の提出が必要となりました。デザインプロデュースに入っていたフランス企業がすでに取得していた国際的な検査機関の証明書(100%カシミヤ)を取り寄せて百貨店に提出したところ



「指定された日本の機関での証明が必要」と再検査することに。

すると驚いたことにカシミヤ100%ではなく、85%という結果に。100%で用意していた品質表示タグなどすべて作り直し、付け替えが必要になりました。お客様の手に渡る前でよかったのですが、こういった心配の種は尽きません。「途上国の品質基準はまだまだだね」と短絡的に思いがちですが、国内外の検査機関によって異なる結果もあります。

他にも、汚れ、異物混入、サイズ違いなど、さまざまな問題が常に持ち上がりますが、途上国の生産者に負担をかけないような商品開発を行いつつ、国内パートナーの倉庫会社と連携して、検針・検品をしっかり行い、フェアトレード商品をお届けしています。



フェアトレードの国際会議に参加

世界的なフェアトレードのネットワークWFTOの国際会議にも参加。2016年バンコクで開催されたサミットでは、生産者の方たちに向けて、日本市場についてプレゼンテーションを行いました。コンシューマーがフェアトレードをどのようにとらえ、何を求めているのかをフィードバックするのも途上国に対して大切な貢献の一つです。

10th Anniversary Congratulations!

ブルキナファソ・セネガル・ブラジル・コロンビア・メキシコ・インド・ネパール・ベトナム・カンボジア・タイなど10か国以上の生産者に収入と笑顔を届けてきました。そして国内外の多くの方からもご共感、応援をいただきました。

09 ~世界の仲間は応援団~ この笑顔がエネルギーです

Tuyet Lan Tran (CRAFT LINK General-Manager)

福市は、とても長い期間ベトナムの生産者と取引をしてくれています。福市のサポートのおかげで、クラフトリンクの生産者の生活は以前よりもとてもよくなりました。10周年ということで生産者にもこのニュースを伝え、そして今までの功績とこれから的发展をお祝い申し上げます。福市とお付き合いをはじめて、私たちはとても素晴らしいと感じています。というのも、福市は他の普通のバイヤーと違うのです。とてもクラフトリンクの生産者を気にかけてくださいます。生産者のコンディションはもちろんのこと、よりよい品質の商品づくりのためアドバイスをくださいます。これからも福市からサポートいただきたいです。また、福市が今後ますます成長され、より多くのベトナムと世界中の生産者をサポートしていただければと思います。ありがとうございます。



ベトナムのNGO。少数民族や障がい者、農村地域のサポートを行っている。WFTOのメンバー

**Sam Oeurn Ouk
(Ta Prohm Silk Founder&CEO)**

タプロムシルクのコンと私は、すばらしい設立10周年を迎えることをお祈りしております。この3年間、カンボジアの手作りのシルク製品の販売先としてお取引させていただいていることを、とても嬉しく思っています。織の村で、家と家への移動に小さなボートで、一緒に渡ることが懐かしい思い出です。染料づくりや、織る前にシルク糸を染める工程などをひとつひとつ、丁寧にご覧になりましたね。これからますますのご発展と、タプロムシルクとのさらなるビジネスを願っています！



カンボジアの生産者グループ。自らも地雷の被害者でありながら、ポリオを患っている人、HIVで両親を亡くした祖母と子供などをサポートしている。

渡辺龍也氏 (東京経済大学 教授)

10周年おめでとうございます。ハイセンスな商品で日本を代表するLove&senseさんにいつも感服しております。フェアトレードの普及はもちろん、東日本大震災の支援や、若者の育成など、これから日本の社会を牽引していく欠かせない存在の一つと確信しております。これからもますます頑張ってください。そして、今後も共にフェアトレードを広めていきましょう。



フェアトレード研究者。フェアトレードタウン運動にも造詣が深く、一般社団法人日本フェアトレード・フォーラム理事



生産者の皆さんと世界各国でフェアトレードを普及している私たちの大切な仲間たち

10th Anniversary Congratulations!



10 ~被災地にも手仕事を／イーストループ～ EAST LOOP

東日本大震災後にフェアトレードの取り組みをもとに被災地支援プロジェクト「EAST LOOP」を立ち上げました。

今までのフェアトレードの経験をもとに、被災地に仕事をつくり、手仕事で心を癒し、被災者自らが収入を得るための仕組みをつくろうと思い、震災直後の4月に現地に入りました。しかし現地では全く理解されず、「被災者に仕事をさせる気か！」と厳しい言葉も浴びせられ、方向性を見いだせぬまま大阪に戻りました。

ある人が言ったこと『人の幸せは4つ。人に愛されること・人にはめられること・人の役に立つこと・人に必要とされること』つまり3つは仕事によって得られます。途上国とのフェアトレードの取り組みから、人々は施しだけでは生きていけない、尊厳を持つことが何よりも大切で、人々の生きる力につながるということを経験していたこともあり、あらためて5月に被



ハートのプローチ（デザイン協力／岩切エミさん）

被災地を訪れました。

支援物資でなんとか生きながらえた被災地の人たちではありましたか、何もすることがなくこのままで二次被害につながるかもしれないという空気が流れています。状況が変わっていたのです。現地のNPOの協力を得てプロジェクトはスタートしました。

最も少ない道具で取り組めるのは、かぎ針で編める作品作りでした。流れ作業ではなく、自らのペースで好きな時間に取り組める編み物は、避難所や仮設住宅でできるピッタリなプロジェクトでした。自分のニックネームをパッケージに記載することで、商品は作品となり、各々が丁寧に取り組みました。またお互いが編み物を教えあうことで、震災以外の前向きな話題が生まれ、コミュニティが形成されていきました。

一方通行の寄付ではなく、作り手さんと買い手である私たちとの双方がコミュニケーションできるように「EAST LOOP」と名付け、facebookなどで手軽に作り手さんにメッセージを送る仕組みを作りました。

※2016年3月まで累計上代売上。売上の半分は生産者団体の収入になります。

参加した人たちは、「このハートの編み物は、楽しい仕事だよ」と友達、知人を誘い、最大で200名以上の編み手さんたち（岩手県・宮城县）が参加、国内はもちろん海外でも販売され、多くの人々の共感を得て7000万円以上（※）の売上となりました。

プロジェクトは被災地のソーシャルビジネスの成功事例として経済産業省の事例集にも取り上げられました。

EAST LOOPプロジェクトは、現地に設立した法人合同会社東北クロッシュ村に、すべての事業をノウハウとともに移管しました。継続的に仕事が続くように、ニットのサンプル編みや企業のOEMなどを受け事業を発展させています。



経産省、復興庁の事業に採択

EAST LOOPの取り組みは高く評価され、2012年度、2013年度は経産省のソーシャルビジネス創出事業、2014年度には復興庁「新しい東北」のモデル事業に採択されて、被災地の他の団体（石巻復興支援ネットワークや南三陸ミシン工房など）に、今まで培ってきたノウハウをハンズオンし、発展に寄与しました。

事業終了後もLove&senseの東北イベントの企画など販路拡大の機会を作り、継続してサポートしています。



交流の様子は編み物業界紙「毛糸だま」で特集されました。



世界的なデザイン・デュオ アルネ＆カルロスともコラボ

ノルウェーの人気ニット・デュオの二人にもEAST LOOPの取り組みを応援してもらいました。被災地に足を運んでもらいニットイベントを開催。全国からニットファンも訪れ共に楽しい時間を過ごしました。その後EAST LOOPのためにデザイン提供および、彼らの商品の制作依頼など、今も交流が続いている。



11 ~知見をシェアする~ より多くの人が行動するために

株式会社福市が目指す『持続可能な社会にむけて行動する人を増やす』ためには、さまざまなステークホルダーが行動するための接点を作ることが必要です。

企業にもサステイナブルな視点を持ってもらい、新たな事業を構築したり、既存のビジネスの社会的価値を高め、より多くのお客様から支持される経営を行ってもらいたいと思っています。そんな中、京都市からチャレンジの機会をいただきました。



INNOVATION CURATOR JUKU イノベーション・キュレーター塾

※キュレーターとは
「無数の情報の海の中から、自分の価値観や世界觀に基づいて情報を拾い上げ、そこに新たな意味を与え、そして多くの人と共有する人」(「キュレーションの時代『つながり』の情報革命が始まる」/佐々木俊尚著)

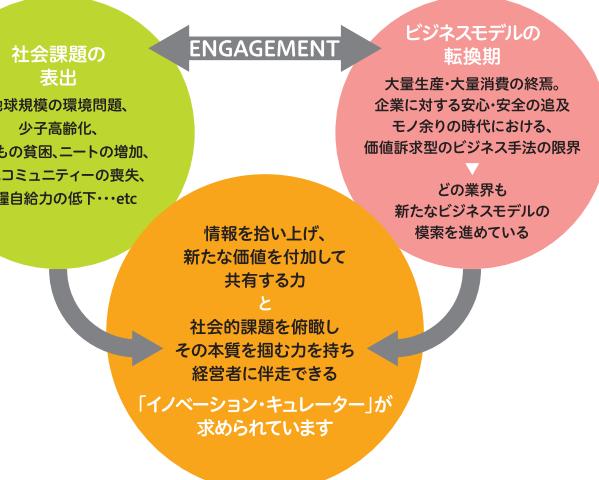
京都市 イノベーション・キュレーター塾

『持続可能な社会の実現を目指す、“四方よし”ビジネスの支援者になりませんか』

2015年3月に発表された京都市イノベーションクラスター構想に基づき、誕生したイノベーション・キュレーター塾の塾長に、任命されました。

以前、経営していたマーケティング会社と、ソーシャルビジネスとしてフェアトレードに取り組んできた実績を認められ、コンセプトメイ

なぜイノベーション・キュレーターが必要なのか?



クからカリキュラム作成・運営などを担当することになりました。

「イノベーション・キュレーター」とは組織内外で中長期的な観点から、組織の社会性を経営者と共に考え、社会課題の解決をビジネスとして継続させる伴走者のことです。

塾では、社会問題を多面的に分析し、そこにある光をあてビジネスを展開しているゲストとの対話、塾生同志の学び合いを通じ、新しい手法の習得をめざし、組織内・外で活躍できるイノベーション・キュレーターを育てています。

講演会・セミナー

フェアトレードやソーシャルビジネスへの関心が高まるにつれて、講演やセミナー講師の依頼も増えました。大学では300名以上の学生に向けての授業や、ゼミで具体的な事例についてのディスカッション。高校や小学校でのセミナー、消費者教育、行政が主催するシンポジウムでの登壇。最近では企業からのCSRの一環としてフェアトレードをお伝えする機会も増えています。

途上国の現状報告やフェアトレードを通じて、新しい社会的な価値をもたらすことを伝えしていく機会をいただくのは、とてもありがたいことです。

小学5年6年生への授業

東北支援とフェアトレードの話をさせていただきました。びっしりと書き込まれた感想文には、貧富の差があるのはおかしい、苦しい生活を送っている人のことを忘れてはいけない等、とても関心をもってくれました。



大学コンソーシアム大阪

2013年から大学コンソーシアム大阪のグローバル人材育成講座の講師をオイコクレジットの小吹氏と共に務めています。関西の大学を縦断して、NGOや企業の視点から、世界で仕事をする時に配慮すべきことなどを伝えています。

高島屋の店頭でトークイベント

人気DJのシャーリー富岡さんとフェアトレードについてのトークイベント。途上国への旅の話や、そこで作られている商品についてなどわかりやすく、話を引き出していただきました。



Love&sense 感謝祭

何故フェアトレードが必要なのか、表面的にはわかりにくい問題の本質を伝えるためのイベントを企画。貿易ゲームや話題の映画「ザ・トゥルー・コスト」の上映などを行いました。



12 ~広く伝える~ メディア掲載

メディア掲載実例（画像はごく一部です）

新聞／日経新聞、読売新聞、朝日新聞、産経新聞、毎日新聞 他
TV・ラジオ／NHK BS経済最前線、NHKニュース7、NHKあさいち、
関西テレビ、ラジオ関西、FM802、TOKYO FM 他多数
雑誌／モノマガジン、オルタナ、ソトコト、婦人画報、
25an、FIGARO JAPON 他多数
本／企業と震災、NAKED FASHION 他



設立以来、多くのメディアが株式会社福市の取り組みを紹介してくれました。テレビ・新聞・雑誌・WEB・コミュニティ誌など、国内にとどまらず海外からも取材を受けました。時には客観的な記者の視点で、私たちも気付いていないようなことにスポットライトをあてて作っていただいた記事もあります。

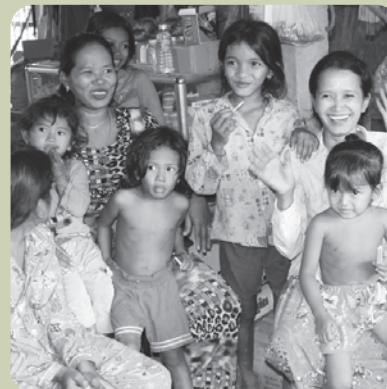
メディアという第三者によって伝えてもらうことで、多くの読者にフェアトレードを伝えることができたと共に、私たちは多くの信頼を得ることができました。

あとがき／未来へ

「奴隸制やアパルトヘイトと同様に、貧困は自然のものではなく、人間から発生したもの。よって貧困は人類の手で克服し、根絶できるものだ」

(Like Slavery and Apartheid, poverty is not natural. It is man-made and it can be overcome and eradicated by the actions of human beings)

ネルソン・マンデラ氏の言葉です。



next

fukuichi 10year's history
株式会社福市
フェアトレード10年史
～そして未来へ

発行日／2016年11月1日
発行人／高津玉枝

編集／株式会社福市
デザイン／タツミコウゾウジムショ
印刷／株式会社グラフィック

株式会社福市設立から10年。

時代はさらに混沌とし、さまざまな課題が生まれているように感じています。

英国のEU離脱、トランプ大統領の誕生などに見られるように、「格差」からくる不安や怒りが静かに生まれ、急速に増えています。もはや、「貧困問題」は途上国に限らず、「格差」という形で、全世界に広がっているのです。

一方で、気候変動が進み、生物多様性が失われ、さまざまなゴミが海洋を漂い、環境問題も深刻さを増しています。それによって一次産業に依存している途上国の人たちが最も影響を受けています。

私たちは今まで以上に、世界に目をむけて行動することが求められるはずです。

ネルソン・マンデラ氏の言葉を信じ、株式会社福市は次の10年、持続可能な社会に向けて行動することが不可欠であり、それが素敵でカッコイいというライフスタイルであることを、さまざまな形で提案していきたいと思っています。

2006-2016

Love & sense

<http://www.love-sense.jp/>

online shop

<http://shop.love-sense.jp/>

直営店／阪急うめだ本店10F

株式会社福市

〒550-0011 大阪市西区阿波座1-9-21 ACDCビル2F

06-6648-8080

info@love-sense.jp

